

2月定例教育委員会会議録

| | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 令和5年2月16日（木）午後5時30分から午後7時15分まで |
| 2 会 場 | 磐田市役所西庁舎3階特別会議室 |
| 3 出席者 | 山本敏治教育長、秋元富敏委員、鈴木好美委員、大橋弘和委員、阿部麻衣子委員 |
| 4 出席職員 | 藺田欣也教育部長、鈴木智也教育総務課長、内藤弘隆学府一体校推進室長、水野康代学校給食課長、小沼裕樹学校教育課長、岡本由紀子中央図書館長、竹内直文文化財課長、伊藤豪紀地域づくり応援課長補佐、伊東直久幼稚園保育園課長、大石修次放課後児童支援室長（傍聴人0人） |

（進行委員：大橋弘和委員）

1 開会

2 教育長あいさつ・教育長報告

本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。令和4年度も残りわずかとなりました。2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われているように、大変あわただしい時期となりますが、そういう時期だからこそ地に足をつけて本年度のまとめを確実にしていきたいと思えます。「何のためにその事業を行うのか」という目的をきちんと再度確認し押さえた上で、今年度の一つ一つの事業を検証し、それを踏まえて来年度の具体的な事業の立案をしていく必要があると考えます。子どもたちにとって、市民の皆様にとってより良い事業となるよう、それぞれの課において見直し、改善をよろしく願います。

さて、例年、スポーツや文化活動等において、優秀な成績を収めた小中学生が表敬訪問してくださっています。私は、この場を大変楽しみにしているのですが、教育長を拝命した8月から多くの小中学生が訪問してくださり、新聞にも数多く取り上げていただきました。県の大会やコンクールで優勝など上位に入賞された方をはじめ、東海や全国の大会・コンクールに出場される方、その東海、全国の大会・コンクールで上位に入賞された方、中には、全国優勝という輝かしい成績を収められた個人、チームも複数ありました。私自身、その訪問を受けて、元気と勇気をいただいています。一人の磐田市民として大変誇らしい気持ちにもなります。訪問していただいた児童生徒に共通していることは、こんなことができるようになりたい、こんな自分になりたいという目標が明確であること、自分の強みと弱みを自分自身できちんと理解し、その目標に近づけるように自分自身で創意工夫できること、つまり自分で考え、行動できていることです。このことはスポーツや文化活動だけでなく、すべての教育のなかで大切にしていかなければならないことであると考えます。磐田市の教育目標にもある「未来をひらく」ことのできる資質能力の育成に向け、力を尽くしていきたいと思えます。

報告を2点させていただきます。1点目は、去る1月25日に教育委員の視察研修として、「イエナプラン教育」の考え方を教育活動に取り入れている名古屋市立山吹小学校へ行ってきました。「イエナプラン教育」は、ドイツで生まれオランダで広がった異年齢による学習集団による教育で、子どもそれぞれの「個」を尊重しながら「自律」と「共生」を育むことを目指していることが最大の特徴です。当日は、異年齢による学習集団での授業は一部しか参観できませんでしたが、「山吹セレクトタイム（YST）」という児童一人一人が自分のペースで学習を進める授業を参観させていただきました。

た。自由進度学習という形で、ある子は国語の学習を、ある子は算数の学習をというように、一人一人の児童が自分の立てた計画（その時間に学習する教科や内容等）に基づき、「単元進度表」という教師が作成した学習の道しるべに沿って、自分のペースで、一人でまたは友達と、学習する場所も自分の好きな所でというように、学習の内容や方法、場所等を自己決定しながら学習に取り組んでいました。小学校1年生が、自らの意思で、このYSTの学習で黙々と取り組んでいる姿に驚きを覚えました。本日の協議事項として、研修視察の詳細について、ご参加いただいた教育委員の皆様から、それぞれご報告していただきます。

2点目ですが、昨年10月の総合教育会議で、子どもたちの郷土愛の醸成をテーマに、市長とともに協議しました。その際、小中学生に磐田市の良さや魅力等を発信していく機会を設けたらどうかという意見がありました。その意見を受け、政策推進課のご尽力により、本年度は中学校3年生を対象に、卒業に向けての市長からのメッセージという形で、磐田市PR動画を制作していただき、その動画を各中学校で、卒業式前の学年運営の時間を使って上映していただくことになりました。私もその動画を見させていただきましたが、市長の卒業生への熱いメッセージとともに磐田市のPRはもちろんのこと、水谷隼さんのメッセージなども組み入れていただき、大変素晴らしい動画が完成しました。磐田市教育委員会の目標にもある「ふるさとを愛する心」の醸成につながっていくことを期待しているところです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 前回議事録の承認

1月27日定例会に関して

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

4 教育部長報告

私からは議会報告をさせていただきます。主に次年度当初予算と本年度予算の精算補正を審議する2月議会は、2月15日から3月22日まで行われる予定です。市議会初日に諸般の報告がありました。その中で、代表監査委員による定期監査報告があり、学校の理科薬品の管理等について、繰り返し同様の改善指摘があったことについて質問が出されました。これに対し、教育委員会として再発のないよう、改めて対策を検討することを回答しました。また、1月定例教育委員会で審議した議案のうち、先議による補正予算の上程と、それに対する会派からの部長質疑が昨日行われました。質問内容は、学府バスや送迎バスの安全装置の仕様、幼稚園保育園の送迎バスに設置する装置との仕様の違い、故障時の対応、ソフト対策などについてでした。予算委員会も同じ日に行われ、この先議議案の採決は2月24日の予定です。本日16日は、市長の施政方針に引き続き、令和5年度当初予算と改正条例の一般議案を上程し、部長説明を行いました。この当初予算に対する会派代表からの質疑は3月1日、一般議案に対するものは3月2日です。一般質問はすでに通告があり、8人の議員から学校関係、学校教育関係を中心に42問の質問がありました。日程は、2月24日と2月27日の2日間です。民生教育委員会による共通予算及び一般議案の審査は3月3日、予備日は3月8日の予定です。

○理科の薬品管理についてですが、劇薬などの薬品がある中で、その保管方法に関して学校の意識が低かったところを反省し、今後どのような形で管理するのかを再度指導して、教職員の意識改善を含め、徹底した管理を行っていきたいと思います。

5 議事

・議案第13号 令和5年度磐田市教育行政にかかる一般方針の作成について

○令和5年度磐田市教育行政に係る一般方針の策定について説明します。令和5年度の教育委員会の目標や方針については、9月の定例教育委員会でご意見をお伺いしたもので、教育委員会の目標は前年度に引き続き、「ふるさとを愛し 未来をひらく 心豊かな磐田市民」としています。主な変更点のみ、順を追って説明します。本日、机上に昨年度のリーフレットを配付しましたので、必要に応じて見比べてください。1ページ目ですが、「磐田の教育」道しるべを写真のとおり変更します。これは、市内在住の書家・石田不空さんが揮毫されたもので、教育長室に掲げてあるものです。写真は後日取り直して掲載しますのでご了承ください。

2ページ目の計画体系と主要な事業ですが、先ずレイアウトを変更しています。これは、委員の皆様から「磐田市がすごく力を入れてやっている内容をもっと強く訴えた方が良い」というご意見を受けて、具体的な施策を昨年度より多く掲載することにしたためです。次に、教育委員会の目標を達成するための3つの方針についてです。内容は変更していませんが、敬体（です・ます調）であった表記を体言止めの表記に変更しています。各方針の説明については、委員の皆様から「地域と一体となって、という表現にしてほしい」、「たくましい磐田人を育てる、生きる力を育む、というキーワードを念頭に置いて各施策を考えてほしい」という意見がありましたので、それを反映した表現にしています。次に、各方針に係る各施策についてです。変更箇所を赤い文字にしてありますが、その中で主なところだけ補足説明します。方針2の施策1「地域の学習資源を活かした教育活動の推進」ですが、昨年度、方針2の施策3としていた「家庭、地域、園・学校における読書活動の推進」の施策を、ここへ盛り込みました。これは、「にこっと」と連携しているブックスタート事業（乳幼児からの読み聞かせの推進）を追加したため、地域の学習資源の括りとしたものです。方針2の施策2については、関係各課の意見を取り入れ、具体的な施策を増やしています。教育委員の皆様から「休日部活動を、施策のどこかに入れてほしい。」というご意見がありましたので、ここに掲載しています。方針3の施策1については、「学校（園）環境の充実」という表現にしました。これは、施設面だけでなく、学府バスの運行や学校給食の安全と充実を盛り込んだためです。計画体系と主要な事業の主な変更点は以上になります。

3ページ目の「これまでに進めてきた主な事業」ですが、（1）教育施策と学校教育と（2）図書館と文化財については、若干、追記した内容はありますが、大きな変更点はありません。

新たに（3）生涯学習活動を加えました。これは「各種講座、文化活動など、リカレント教育（学び直し、社会教育）のような内容を盛り込んでほしい。」という教育委員の皆様からのご意見をもとに追加したものです。

4ページ目ですが、現在進めている主な事業については、課ごとの表記をやめました。これは3ページ目を課ごとの表記にしていけないのに合わせた形となります。

下の段の「これからの課題」については、休日部活動の地域移行の検討と、先日市内に設置が決まった、特別支援学校を追加しています。

以上、令和5年度磐田市教育行政に係る一般方針の策定について、説明しました。なお、リーフレット全体のレイアウトやデザイン、フォントサイズなどについては、印刷業者と調整しながら、可能な限り、見やすいものにしていく予定ですので、ご了承くださいたいと思います。

< 質疑・意見 >

■ 2 ページ目の計画体系と主要事業の各方針に係る各施策の文字が小さくて見づらいので、大きくしてください。それから、4 ページ目の現在進めている主な事業については、この形が良いと思います。今まで課ごとに分けてありましたが、この方が主要事業から順を追って分かりやすい形になっていると思います。

□ 承知しました。このリーフレットをもとに、来年度「磐田の教育」の冊子を作りますが、このリーフレットに示した各方針・各施策が元となるため、今年度の冊子と比べて、枠組みや順序が変わってくると思います。また、「磐田の教育」は、他市と比べて冊子自体が分厚くなっていますので、少しスリム化しようと考えています。その点をご了承いただきたいと思います。

6 報告事項

(1) 地域づくり応援課

○ 月例報告の他に、当課の多文化共生の取組みを紹介します。昨日、磐田市にある外国人保育所チアホーザと、公立の豊田東幼稚園の園児同士でオンライン交流会を行いました。磐田市民に外国人学校の存在を知ってもらうことと、言葉や国籍が違っても人と人との関係を幼児期から養っていくことを目的として開催しました。これに合わせて、両園の各教室にタブレットを置き、民間団体が開発した笑顔を自動感知する機能を使って、「おはよう」「こんにちは」「また明日ね」と、言葉の代わりに互いに笑顔の数を数えて、笑顔を交換するという取組みを今月いっぱい行います。さらに、この取組みに対するクラウドファンディングを昨夜から開始しました。10万円を目標にしています。ここで得られた寄附金は、多文化交流サッカー大会、「ダイバーシティ・サッカー交流会 磐田市長杯」で使うサッカーボール代へ充て、大会終了後に公立の全幼稚園と保育園、こども園、そして外国人学校へプレゼントする予定です。磐田市には55か国の外国人の方がいますので、この方々と日本人を、サッカーをきっかけに日常的に相談し合える、イベント等に誘い合える関係にしたいと思っています。来年度、当課の名称がダイバーシティ推進室に変わり、多様性を認め合うことを推進する部署となる予定です。その部署ができる前の前哨戦としての取組みになりますので、ご承知いただきたいと思います。

< 質疑・意見 >

■ 交流サッカー大会の申込み状況や出場チーム数はどのくらいですか。

□ 参加チームはある程度こちらから声をかけさせていただきました。竜洋の広いグラウンドですので、半分はサッカーマッチを行い、もう半分は子どものサッカー教室や、フリーで来た親子が遊べるようにします。サッカーマッチは10チームで行います。当課が主催している日本語教室から1チーム、チアホーザ、チアホーザの親子で参加するチーム、市内のNPO法人であるポーラスター、地元竜洋のチーム、インドネシアの友好協会、静岡産業大学の留学生などが参加します。サッカーを通じて、うまく心の交流が図れたら幸いです。

■ オンライン交流会はなぜ豊田東幼稚園を選んだのですか。

□ チアホーザが市内一言にありますので、最寄りの幼稚園が豊田東幼稚園となります。言葉はほとんど分かりませんが、笑顔と見ぶり手ぶりで思いは伝わるものだと、大人の方が逆に刺激を受けたような時間でした。

(2) 幼稚園保育課

<質疑・意見>

なし

(3) 教育総務課

<質疑・意見>

■向陽学府小中一体校開校準備委員会の中で、校名の選定方法とあります。小学校の方だと思っておりますが、現在どういう状況なのか教えてください。

□中学校はそのまま向陽中学校となる予定ですが、小学校が3校合併するという形となるため、校名をどうしようかと協議しています。当初、小学校だけの校名を変えることについての理解が足りなかったため、先ずそこから説明しました。その後の協議の中で、校名を公募する案、事務局が候補を提示する案、アンケートを行う案が出て、アンケート方式にする方向で進んでいます。事務局としては地域の意向を元に決めた形にしたいので、広く意見を聞くことを考えています。また、定例教育委員会の中で随時報告をさせていただきます。

(4) 学校給食課

○2月2日に第4回磐田市立学校給食運営委員会を書面表決方式にて開催しました。この中で、令和5年度磐田市学校給食物資納入業者について62件を指定しましたので報告します。なお、新規業者は青果物類業者1件です。

<質疑・意見>

なし

(5) 学校教育課

<質疑・意見>

なし

(6) 中央図書館

○教育委員会告示案件となる図書館の資料点検期間及び臨時休館期間について、磐田市立図書館条例第5条により資料点検期間を休館日とすることが定められています。令和5年度における各館の資料点検期間を定めましたので報告します。また、令和5年4月の竜洋図書館の空調設備改修工事に伴い臨時休館とする場合は、期間を変更しますので、改めてこの場で報告します。

<質疑・意見>

なし

(7) 文化財課

○歴史文書館歴史学習会の講演会について、加藤理文氏による講演は今年3回行いまして、1回目は城之崎城について、2回目は社山城、3回目は中泉御殿ということで、いずれも定員を大きく上回っています。大河ドラマが始まり、市民の関心が高まっていますので、磐田市としてもできるだ

けのPRをしていこうと考えています。

< 質疑・意見 >

■遠江国分寺跡整備委員会の中で、講堂と僧房の木装基壇が完成とあります。ぜひ説明付きの見学会を行ってほしいです。

□4月1日に現地説明会を行います。また、広報やホットラインを通じてご案内します。

7 協議事項

・令和4年度教育委員視察研修について

○1月25日に、教育長、教育委員3名、学校教育課の小澤指導主事が名古屋市立山吹小学校へ視察に行きました。子ども主体の特色ある授業や教育活動などを行っている小学校でしたが、出席された委員の方々から感想などをお聞かせください。

■カルチャーショックのように感じました。全体で国語、算数などを行う時間帯もあるのですが、子どもが自分で今日の2時間目は算数をする、3時間目は違う教科をやるというように選んでいる状況を見ました。グループでやっているのに、隣の子は算数をやっている、こっちは国語をやっている。困っている子がいたら、こうだよと教えてあげる。その子が理解できたら、さっと自分の学習に戻れる。先生たちの準備が大変だとは思いますが、子どもたちが自ら工夫して、自分で丸付けをできる精度を上げないと、こういう学習はできないと感じました。なぜこのような素晴らしいことができるのか質問したところ、ゲームのような感じのアドベンチャープログラムというものを朝の会や昼休みにやっていて、この中で失敗した人との接し方や、困っている人を気配で感じて行動できることが身に付くと言っていました。こういう教育活動を指導できる先生をその小学校に結集させているのかもしれませんが、教育委員会もオランダへ視察して改革をバックアップしていました。民間とのマッチングということを教育委員会が意識しないと、ここまでできないと思います。週に何時間か自分がやりたいことをやる時間を総合学習の中に設けるなど、良いところを取り入れてみて、自分に自信が持てるようになる教育ができれば素晴らしいことだと思いました。

■私も本当にカルチャーショックを受けました。隅の方で隠れて学習する子、床に座って学習する子などがいて、先生が大変ではないですかと聞いたら、最初は大変だけど、これで年数を重ねていくと、6年生になったらほとんど自立した子になっているので、すごく楽になりますと言っていたのが印象的でした。本音では大変だと感じている先生もいるのだろうという見方もしましたけど。それにクラスの中に取り残されている子がなくて、それぞれ自分のペースで自分の目標に向かってやる、それも好きなスタイルで学べるからこそ、自分のやりたいことが進められるのではないかと思いました。教育の内容は本当に面白くて、質問のステップとして、疑問に感じたことやよく分からなかったことを先ず聞く。その次は驚いたことや不思議に感じたことを聞く。3番目は少し引かかったところを聞く。4回目は面白かったことを聞く。正しく丸を付けられるかということに対してステップが5～6個あって、質問をするためのステップも6個ぐらい、子どもの自立性を引き出すために各ステップが設けられているので、1つ1つクリアしていけば、自分で考えて何が分からなくて、何をどう質問したいかということが的確に答えられるようになるのだと思いました。最後に子どもたちの卒業文集が披露されたのですが、トライ&エラーを繰り返して事業を進めてきたという自負や自己肯定感が向上心につながったというコメントがあり、自分で未来を切り開く力や自分で自分の進路を考える力というようなものが作文に凝縮されていたと感じました。

■教室へ入った瞬間とても静かだと感じました。学校訪問で市内の小学校へ行くと、先生が質問した際に問題がすぐ分かって暇そうにしている子や分からなくて暇そうにしている子がいたり、先生が問題を書いている最中に私知っていると云う子がいたりするのですが、山吹小学校は先生からより難しい問題を出され、皆黙々とその問題にトライし、分からない子がいたら周りが助けてあげているという状況で、暇そうにしている子がいないのが印象的でした。先日磐田市がスポーツのまあのランキングで1位から2位になってしまったという記事を見ました。磐田市は他にも小中一貫校や夜間中学校や特別支援学校など独自の施策を行っています。山吹小学校は独創的な教育を行っていることに対して、磐田市はスポーツ・教育・福祉にやさしい市であることをアピールしていけば良いのかなと思いました。

○日本の教育というものは、先生が前にいて、子どもたちが先生に向いて座っていて、教科書を中心とした教材があって、教師の発音指示に従って子どもたちが動くというスタイルです。子どもたちには個人差があって、個性も違ってという中で、教師は真ん中より少し上のレベルに焦点を当てて、その上下を見ながら授業をしている。それは日本のある意味、匠の技として認められてきた教育ではあるけれど、これからの教育は子どもが自走できる、自分で考えて自分で行動できる、その前に気付きがあって、課題設定があって、それに対して自分で方法を考えるようにしていく。子どもたちの中に、ある程度学び方を落としていかないと、現代社会の中を自分で切り開いていけないようになってきています。山吹小学校では、自分で計画を立てて、その計画に従って学んでいくというカリキュラムを教師が組んで、その中には個人の自由度を設けて、どうしても学ばせたいところプラス少し発展的な学びもいくつか用意してある。子どもたちはその枠の中で自ら考え、課題を見つけながら決めていく、自分自身で学び方を切り替えていくといったところの基礎となる力を、こうやって身に付けていくのだと感じました。ドイツ発祥のイエナプラン教育のコンセプトを採り入れているのですが、集団の中でお互い自立と共生を学んでいます。探求的な学びとして、総合的な学習の時間で、少しでもこのコンセプトに近いような学びを取り入れられるよう研究していきたいと思っています。

8 その他

○2月10日に教育委員の皆さんが、東京で開催された市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会に出席しましたので、そのときの感想などを少しお聞かせください。

■コロナ禍でずっとオンライン研修でしたが、やはり対面方式の方がいろいろと得られる情報が多いと感じました。講演と分科会の中の休憩中などの雑談で聞く情報は貴重なものでした。私は休日部活の地域移行をテーマにした分科会に大橋委員と参加しました。6人のグループで話し合う場があり、私が最初に磐田市の事例を紹介しました。中学校では外部指導者を入れて40人弱ぐらいで休日に指導してもらったり、野球などは単一の中学校で出来ないところは複数校が集まって、そこに外部指導者が来て指導したり、文科省がこれから進めてほしいという内容の一部はもう行っていますと話しました。また、市独自のスポーツ部活、陸上とラグビーは数年活動していて、その先の完全な休日部活の地域移行をこれから1年かけて準備していきますという話をしました。そうしたら質問責めに遭ってしまいまして、どうやってそれだけの人数の外部指導者を集められるのか、なぜラグビーなどの競技を1か所に集めて週に何度も行えるのか、移動の手段はどうなっていて、その途中で事故に遭ったときは誰が責任を取るのかなどと聞かれました。地域企業のバックアップや地元のスポーツクラブな

どの協力で成り立っていますと回答しましたが、やはり他市では外部指導者を集められないことと、それに係る予算を確保できないことが最大のネックとなっているようでした。それから私の分科会ではなかったのですが、埼玉県白岡市は4月から全スポーツを地域移行すると言っていました。そういう先行しているところへ視察に行ってみたいと思いました。

■私も休日部活の分科会に参加しました。皆さんが言われたのは指導者不足と資金不足でした。私のグループには民間の方がいて、その方は、休日部活というものが教員の働き方改革に端を発しているけれども、そこからスタートすると話がおかしくなってしまう。少子化や外国人対応という観点から考えた方が良いと言っていました。どの市もなかなかスタートできない状況でした。

■私は地域と学校の連携・協働をテーマにした分科会へ参加しました。話をする前に、同席した他市の教育長から磐田市はサッカー部をすべて地域移行したのですかと聞かれ、否定しておきましたが、やはり皆さんは休日部活に心を割いているのだと感じました。分科会の方ですが、市内全校でCS（コミュニティ・スクール）をやっているのは磐田市だけでしたので、多くの質問を受けました。磐田市のCSは学校や地域のニーズに応じているので、学校によって全然違うと説明しました。同席した他市の教育長は、地域と関わることを嫌う校長先生がいると途切れてしまうので、早くCSの仕組みを採り入れてしまえば安定して地域との連携が図られると言っていました。それから、都会の方ではPTA組織が無くなってきていて、バザーなどの行事をやりたくても誰にも頼めない状況になっているようです。磐田市でもだんだんPTA会費を払いたくないという人が出ていると思いますが、そういうときにCSがあると安定するのではないかと思いました。前教育長が学校運営協議会へ出席している人たちは地域の宝だから、この人たちの意見は採り入れていくべきだと話していましたが、大都市でも完全にできていないことが磐田市ではできていると思うと誇らしく思いました。

■私はいじめと不登校をテーマとした分科会に出て、私のグループは主に不登校について話し合いました。宮城県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県の方がいらっしゃったのですが、すべて不登校の子が増えているとのことでした。不登校の理由は、勉強についていけないからだけでなく、よくわからない不安感があるからという理由が増えているそうです。どの県でも学校外の居場所づくりに取り組んでいて、厚木市のリソースルームの取組みが話題となり、学習障害がある子にいつでも勉強などを教えられるような部屋を設けてその子をフォローするという取組みが、文部科学省に表彰されたと言っていました。磐田市でもサポートルームがありますが、いつでも、どこでも、誰でも分からないことが聞ける体制があることは、子どもにとって一つの不安の解消方法になると思います。そういう子に対して、学校教育課に出向している先生が対応しているという市もありました。とにかく不登校になりそうな子を早く見つけて、早く対応することが大切だと話し合いました。それから、府中市が令和7年度に不登校の特例校開設を目指していることを受け、すでに開校している岐阜市の草潤中学校へ視察に行ったそうです。廃校をリフォームして話題になったところですが、そこでは、親子面談の後に入校の可否を決めるそうですが、入れなかった子はどうなるのだろうという疑問が残ったと言っていました。特例校を作って、いつ来ても良いし、いつ帰っても良いというような緩すぎる感じでは、学校の意義が薄れてしまう恐れがあり、そこが難しいところだと感じました。

■数年前に千葉県で保護者会の元会長が外国籍の子を殺してしまった事件がありましたが、私が参加した分科会にその近くの市から来ている人がいて、もうその学校は地域との繋がりが完全に遮断されてしまったそうです。一度信頼関係が損なわれると簡単には元に戻らないのだと思いました。

■私が聞いた話でも同じようなことがありました。学校が地域の人たちと餅つき大会を行おうとした

ところ、保護者からやめてほしいと言われたそうです。コミュニティスクールのようなものは地域の人との信頼関係が築かれた上に成り立つものだと感じました。

9 次回の開催予定

- ・臨時教育委員会

日時：令和5年3月1日（水） 午後6時から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

- ・定例教育委員会

日時：令和5年3月23日（木） 午後5時30分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

10 閉会